

「社会保障・税一体改革」をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年3月31日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

孤立死なくせ共同行動

厚労省と経産省に要請

北海道から、細川・道生連副会長と今・白石社保協事務局長が参加



3月23日、経済産業省と厚生労働省で中央社保協と全国生活と健康を守る会が全国で起きている孤立死をなくせと「共同行動」を行い、北海道からも細川道生連副会長、今白石区社保協事務局長が参加しました。

経済産業省では、電気・ガス会社が供給停止世帯を訪問し、生活困窮者の情報を福祉部局に提供すること。滞納世帯数や供給停止世帯数を公表。電気・ガス会社の供給約款にこの間の連携強化の「通知」を入れ系統的に対策を行うことなどを申し入れました。

経済産業省は「福祉部局との連携は必要に応じて連携する」「滞納世帯数の公表は生活困窮でない方も含まれ趣旨に沿わない」など答弁。参加者は「北ガスは催促状を送って50日後に自動的に停止している。訪問して実態をつかみ対応を」とライフライン停止は命にかかわる問題として強く要望しました。

白石区姉妹孤立死事件一厚労省が「事実なら不適切」と答弁 両氏が特別監査を要請

厚生労働省では、社会的孤立対策の公的な機関を作ること。電気・ガス滞納世帯に生活保護など暮らしを守るチラシを作成し届けること。生活保護申請書を渡して申請意思を確認すること。所持金がなく電気・ガス供給停止世帯には職権による保護を行うことなどを申し入れました。

厚生労働省は「申請権を侵害してはいけない」「職権保護における窮迫な状態は、申請の意思を表明できない困窮している状態」「この間の事例は検証結果報告を求めている」と答弁。参加者から「白石区の実例は、3回も生活保護相談をしており、ライフラインも止められ、国保も未加入で加入の援助もしていない。この状態でも懸命なる就職活動を指示し、申請する意思を表明できなかった。この姉妹は生活保護で殺されたと思っている」と主張。担当者は「ライフラインも止められ申請意思なしとしていることが事実なら不適切と言われても仕方ない」と表明。特別監査を実施するように迫り、検討すると答弁しました。

行動に参加した今さんは、「連続する孤立死問題での初めての中央行動でしたが、白石姉妹事件はさらに背景・要因・課題を明らかにすること、生活保護申請を権利として保障できるように具体化すること、ライフライン停止は命にかかわる問題であることが痛感しました」と感想を述べています。

申請手続き中も、冷たい生活保護行政 札幌市へ改善求める 道生連対市交渉

26日、道生連は、札幌市と団体交渉を行いました。交渉の課題は「生活保護」「市営住宅」「保育・教育（就学援助）」の3項目。参加者から活発な意見が出されました。中には、生活保護申請時の「民生委員意見書」について、白石区でのリアルな事例も出されました。「申請した時、民生委員さんに渡す封書を預かりました。担当面接官に言われた通り直接渡すため、1週間電話をかけ続けましたが繋がらず、ケースワーカーの許可をもらい郵送しました。その後民生委員が家庭訪問し、家の中を見て『家財道具が多すぎるから売りなさい』と言われ、バスに乗って売りに行きました。でもバス代にもなりません。こんな惨めは思いをしたのははじめてです」と。札幌市は「検討します」の一言でした。（「とんでん」。北区守る会新聞より）



生活保護行政は、申請前だけではなく、申請手続き時にも、利用してからも冷たい対応が行われています。誰もが人間らしい生活ができるように、抜本的な改善が求められます。

「突然3月いっぱい解雇」20代の労働相談も 生活相談、心の相談など相談件数93件

反貧困ネット北海道 「労働・生活の総合相談会」



27日、反貧困ネット北海道が札幌地下歩行空間で「労働・生活の総合相談会」を行いました。今回で5回目。「突然3月いっぱい解雇と言われた」など20代の解雇や賃金不払いなどの労働相談、生活相談や心の相談が多く、依然、就職難や劣悪な労働条件、改悪続く社会保障の下で、多くの人が大変な生活をしていることが明らかになりました。相談者は、医療相談も含めて76人で相談件数は93件でした。

生活相談	28
労働相談	16
法律相談	14
心の相談	10
医療介護	4